



会長挨拶



第23回日本母乳哺育学会・学術集会

会長 山内 芳忠

(国立病院機構岡山医療センター臨床研究部長)

第23回日本母乳哺育学会は10月4日(土)、5日(日)に岡山コンベンションセンターママカリフォーラムで開催いたします。

本学会の岡山での開催は、実に17年ぶりで1991年に川崎医科大学守田哲朗先生が第6回の本研究会を倉敷市で開催して以来となります。岡山は、我が国の衰退した母乳育児の復興にむけた啓蒙活動の発祥の地で、故山内逸郎先生が、その生涯をかけて取り組んできた経緯があります。1970年前半から故山内逸郎先生は、母乳栄養、母乳育児の重要性を全国に情報発信し続け、そして1992年に国立岡山病院は先進国で最初に“あかちゃんにやさしい病院(BFH)”の認定を受けました。国立岡山病院は、現在、新築移転をしまして、独立行政法人 国立病院機構岡山医療センターと名称を変えておりますが、母乳育児推進への活動はそのままひき継がれております。現在、我が国のBFHも59施設と増えて来ました。

今学術集会は、母乳育児の日常に役立つ臨床的ならびに基礎的な事柄を中心とした内容となっております。特に、母乳育児と母子の神経系、心との関連に焦点をあてたプログラム編成に取り組みました。まず、特別講演1は、山口 創先生に第3の脳として最近注目されている皮膚の育児における役割についてお話をさせていただきます。出生直後における母子の肌と肌の接触は良く知られていますが、「育児における皮膚接触の役割」について、その後も何故大切なのかをお話をさせていただきます。更に特別講演2は、第2の脳と呼ばれる消化管と母乳育児との関係について、母乳中の分泌型IgAの発見者であるLars A. Hanson先生に「幼児の生体防禦における母乳育児の役割」についてご講演をいただきます。母乳と母乳育児のもつ不思議で多彩な母子への作用をご紹介いただけるものと思っております。いずれも興味深くそして素晴らしいご講演になるかと今から大変に楽しみにしております。

招請講演1は、母乳分泌のメカニズムに関して世界的な研究をされているPeter Hartmann先生の共同研究者であるJacqueline C. Kent先生に「母乳分泌と最近の知見」を中心にお話をさせていただきます。さらに経済発展のいちじるしい、「台湾の母乳育児の現状」について、Chen Chao-Huei先生にお話をいただき、今後は日本からアジアへの母乳育児推進活動の情報交換となることを願っております。

教育講演 I では、吉尾博之先生に、「母乳の免疫学的側面の最近の話題」と題して、新生児の自然免疫、生来の免疫機構に母乳や母乳育児がどのようにかかわり重要であるかを基礎的ならびに臨床的データから解説をしていただきます。また明日の日常支援で直ぐにも役立つ授乳姿勢やラッチ、新生児の乳房への吸着、「Hands-off テクニック」については、小泉恵子先生に分かりやすくお話をさせていただきますので、ご期待ください。

一般演題につきましては、今回28演題と多くの申し込みを頂きましたので、2日間に分けてご発表いただきます。1日目は、母乳育児の推進への活動を中心に発表していただき、2日目は母乳育児の確立そして継続に関する発表、さらに母乳成分とNICUでの母乳育児についてもご発表していただきます。

最終のシンポジウムでは、厚生労働省から出された授乳・離乳の支援ガイドを受けて、医療・保健現場での課題や今後の対策について、現場の関係者にご発表していただきます。子供の視点に立った活発な意見交換となることでしょう。限られた時間ではありますが、参加者の皆様には、過去から引き継いだ素晴らしい宝物、母乳育児を未来へとしっかりと繋ぐために多方面からの活発な意見交換を御願ひ申し上げます。恒例となりました学会主催の勉強会は、石井廣重先生の企画で、今回は「母乳育児と黄疸」がテーマと決まりましたので、こちらも是非、多数のご参加を御願ひ申し上げます。

岡山県は、ももたろう伝説、果物王国、晴れの国とよばれ気候も穏やかで、海の幸、山の幸にも大変にめぐまれたところでもあります。岡山への交通は、空路、鉄道共に利便性にすぐれ、東西からのアクセスも大変に便利です。是非、これを機会に一度岡山へお出かけください。そして岡山の幸をご堪能いただき、身も心もリフレッシュしていただければ幸いです。

皆様にお会いできます事、心より楽しみにお待ちしております。